

平成26年度 第2回呉市地域公共交通協議会

- 議 事 要 旨 -

日 時 平成27年2月9日（月）

14時00分～15時00分

場 所 呉市福社会館2階 202会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 呉市地域公共交通協議会規約の一部改正について……………資料1
- (2) エアポートバス「呉広島空港線」の事業計画の変更について……………資料2

3 報 告

呉市地域公共交通ビジョン（案）について……………資料3，資料4

4 その他

5 閉 会



(1) 呉市地域公共交通協議会規約の一部改正について

発言者	発言要旨
■資料1について、事務局より説明	
副会長	質疑等があればお願いします。無いようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一 同	異議なし

(2) エアポートバス「呉広島空港線」の事業計画の変更について

発言者	発言要旨
■資料2について、事務局より説明	
会 長	質疑等があればお願いします。
委 員	フリーチケットは「新広島」で降車する利用者に配布し、次回、広電バスを利用する際に使用してもらうとのことだが、チケットを使用する際、空港線のバスを利用することを把握できるのか。また、生活交通に移管した路線でもフリーチケットを使用することはできるのか。
事務局	フリーチケットは「新広島」での降車の申し出があった空港線利用者に配布する。チケット利用者は「阿賀駅前」、もしくは「広島」周辺の方と想定しているが、特に把握する仕組みは考えていない。また、フリーチケットの配布は実験的なものであり、広電バスのみで使用可能としている。
会 長	その他、質疑等があればお願いします。無いようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一 同	異議なし

呉市地域公共交通ビジョン（案）について

発言者	発言要旨
■資料3・資料4について、事務局より説明	
副会長	利用実態や移動ニーズはどのように把握したのか。
事務局	3通りのアンケート調査を実施している。一つ目は、「呉駅」や「新広駅」でのJR利用者を対象にした各駅までの交通手段に関するアンケート調査であり、二つ目が、バスや船に同乗しての乗客に対するアンケート調査、そして、三つ目が、市民に対する公共交通に関するアンケート調査である。
副会長	JRとバスの乗り継ぎ状況について、「呉駅」までのバス利用が60%となっているが、これは、JR利用者に絞ってのことか。
事務局	調査は呉駅前の階段付近で実施しており、ほぼJR利用者と想定している。
副会長	「呉駅」ではバス利用者が一番多いが、他の駅でもバス利用が増えれば（バスの）赤字解消に繋がる。
事務局	「新広駅」や「広駅」では地形的状況から、自転車や徒歩利用者が多く見られるが、乗り継ぎ利便性が向上されれば、バス利用者も増えていくものと考えている。
委員	このビジョン位置付けについての確認だが、活性化再生法に基づく形成計画に移行させるのか。そのスケジュール感は。また、コンパクトネットワークの実現に向けた交通結節点整備の具体案があれば教えていただきたい。
事務局	このビジョンを基に、平成27年度中の形成計画策定に向け準備を進めていきたい。また、交通結節点の具体案としては、広島電鉄が整備した「鍋棧橋」待合所や、最近では、倉橋地区の「桂浜温泉館」内のロータリー整備も実施している。今後は、「新広駅」や「昭和市民センター」付近を交通結節点として位置付け、特に「新広駅」については、市東部の拠点として、整備に向けた検討を進めたい。
委員	市のノンステップバス導入比率は国の基準に比べ低かったが、現在の状況は。
事務局	広電バス125両のうち、約50%がノンステップバスである。平成32年度末までにこの比率を約70%にすることを目標としており、今後も導入を促進していきたい。
副会長	今後のスケジュールは。
事務局	3月の市議会特別委員会でビジョン最終案を報告し、来年度以降、実施可能なものから順次実施していきたい。
副会長	公共交通を考えていく上では、過疎化や人口減少など多くの課題があることから、都市計画との整合、また、双方の働き掛けが必要であるとする。コンパクトシティ、拠点間の連携、そして、持続可能な公共交通を実現するためには、まちづくりの視点が重要である。今後、都市計画との連携を図りながら、まちづくりの中での公共交通のあり方をしっかりと考えて行くべきである。
会長	その他、質疑等があればお願いします。
一同	なし

- そ の 他 -

発言者	発言要旨
会 長	せっかくの機会ですので他に何かありますか。
委 員	横路小学校では、広島電鉄にお願いし、毎年6月に全児童800人と保護者を対象にしたバスの乗り方教室を実施しているが、車両の手配などの関係上、27年度は実施が難しいというお話があった。この教室はバスの乗り方だけではなく、公共交通を利用する際のマナーなども学べる大変良い機会である。今後もぜひ、実施に向けた協力をお願いしたい。
事務局	バスの乗り方教室は、これまでも年数回実施している。今後は、ソフト面からの利用促進にも力を入れていきたい。その一環として、バスの乗り方教室も引き続き開催していきたいと考えている。
委 員	やり方は色々ある。今後、検討したい。
委 員	ノンステップバスの導入にあわせ、バス停などの道路面の環境整備も検討する必要があると考える。
事務局	今後、乗りやすいバス停等の環境整備についても、関係機関とともに検討していきたい。
副会長	バリアフリーの視点をしっかり入れていくことが重要である。今後の交通結節点整備に当たっては、バリアフリーにも十分に配慮して検討していただきたい。
会 長	他に何かありますか。無いようなので、これで閉会とさせていただきます。